

「品質」を取り巻く環境変化に対する 学会活動への期待



ダイヤモンドエレクトリックホールディングス（株）
阿部賢一郎

関西支部長の阿部です。皆さまには日頃より、本学会の活動にご参加ご協力いただき、心より感謝申し上げます。この度は、私自身が企業で経営の一端や品質に携わる中で感じていることや、学会活動に期待したい点について述べさせていただきます。

～時代の「変化」と「品質」～

今、私たちはまさに時代の転換期にいます。産業界、アカデミアの皆さま問わず、この変化の速さを日々肌で感じていらっしゃると思います。

私たちが扱う「品質」とは、お客様の満足そのものです。故に社会の環境変化で「モノサシ」が変化すれば、お客様満足の基準も変わります。企業や組織が社会に貢献し長く存続を果たすには、この変化に対応し、自らも変わることが不可欠であり、人材育成や研究を通じ社会貢献を果すアカデミアの皆さまにも同様です。

現在直面する大きな社会的変化は以下の通りです。

- ・少子高齢化（消費縮小、労働力不足、医療福祉問題）
- ・気候変動（自然災害問題、CO₂削減課題など）
- ・格差問題（教育格差、情報リテラシーなど）
- ・さらに社会と技術の変化から加速する課題として、
- ・価値基準の変化（モノから体験やサービスへ）
- ・DXの加速対応（IoT化や、AIの進化など）
- ・地政学リスク増大（自国主義～RareMetal規制等）

これらは過去に比類ない速度で変化を続けており近年国内で多発した「品質不正問題」もまた、これらの変化が「歪みを拡大」させた結果だと皆さんも感じておられたと思います。変化に順応しない多くの無理は歪みを生み、やがて破綻に繋がります。

～「守・破・離」から考える学会の役割～

武道や芸事の鍛錬・練磨には「型」があり、そこには「守・破・離」という考え方が適用されます。

- ・守：型を守り、繰り返し徹底的に磨く
 - ・破：体得した基本（型）に発展を加える
 - ・離：基本を発展させた上で新たなものを創造する
- これらの全ては、基本を守ることから始まります。

私たち品質に携わる者にとり最も大切な基本の型は、「品質第一」の姿勢・視座であり、それに正対する「方法・手段」、即ち、お客様満足に繋がるモノサシ（プロセス管理や評価手法等）です。

しかし現実的にいま、この第一とすべき「品質（お客様ニーズの満足）」と「方法・手段」とのバランスは今の急激な変化で崩れる可能性を有しています。

これまでは諸先輩方や会員諸氏の努力により、変化に順応した（「破」「離」を担い）新たな方法・手段の創造（学会使命）を果たされてきました。転換点の今、継続的な学会機能発揮がまさに重要となっています。

～直面する課題と未来への対応～

しかし一方で、過去と異なる環境や価値観の中で、近年の学会員減少という事実があります。

お客様（会員／入会検討者）から見た学会「品質」は目的やニーズへの合致。その「方法・手段」である学会活動がニーズ適応だとすると、既に再適応を図る機会や時期なのではないでしょうか。

如何に会員・入会検討者方々の価値に繋がるコンテンツを継続提供できるかです。

特に7割以上を占める企業所属の会員方々と賛助会員企業に向けた価値は、アカデミア側の研究・発表の場の更なる充実方法とともに最重要検討課題です。

喫緊の課題として若年層の入会促進や高齢化への対応等がありますが、目線を変えると社会的な「労働力不足」が背景にあり、特に品質人材の不足は深刻で供給側のアカデミアより寧ろ、企業側の人材育成次元の変革が不可欠（育成や支援が新ニーズ）です。この様に社会問題対応を考えれば、従来の学会活動から、他団体や企業との連携・共創などを必要とする活動も求められてくると考えます。

「既知」の課題だけでなく「未認識」の潜在課題を掘り起こすきっかけになるかもしれません。私たちは「品質」を探求し、問題・課題の解決を扱う専門集団です。今すぐにはなくとも必ず未来に繋がる対応に結びついていくはず です。

まずは、関西支部にて会員増減の実態調査・分析を起点に、有志メンバーでの意見交換を先般始めさせて貰いました。近々何かしらをアウトプットが出来ればと思いますが、次世代に繋ぎ続けられる魅力的な学会・関西支部に向け、皆さま（特に若手の方々）の率直なご意見やアイデアをお待ちしております。是非ともお気軽にご意見をお寄せください。